

令和3年度 東京都立調布北高等学校学校経営報告

1 学校の目標と実施・達成状況

(1) 授業の充実

- アクティブ・ラーニング推進校として、生徒が主体的に授業参加することにより、考える習慣を身に付けさせ、生徒の達成感を高めさせていく。
- 英語教育推進校として、英語4技能の育成に重点を置いたきめ細かい指導等を実施し、生徒の「使える英語力」を向上させていき、国際理解教育に実践的に取り組んでいく。

〈実施・達成状況〉

- ・アクティブ・ラーニング推進委員会を主体として「組織的な授業改善」への取組を行った。教科を越えた相互授業見学、アクティブ・ラーニング教授法を取り込んだ模範授業、見学、観点別評価についての校内研修会を行い、令和4年度実施に向けての体制づくりを行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、休校期間にオンライン授業を実施した。YouTubeでの授業配信、ZoomやTeamsによるホームルームを行った。Classiを活用して課題の提示、振り返りシート、アンケート、予習・復習用動画の配信を行った。対面授業を行えない時間を様々な形式で補った。
- ・生徒による学校授業評価を年2回実施した。結果を受けて教科会を開き、授業改善の方向性を検討し、生徒にフィードバックしながら、さらなる授業の工夫を模索した。
- ・土曜日の活用で年間18回の土曜授業と、土曜講座を実施した。土曜講座は生徒の要望にかなうだけの講座を開講することと、生徒が意義を見出し主体的に参加することが課題である。サポートティーチャー（卒業生の支援）により自習する生徒の質問受付、進路相談等の対応を行った。また外部講師による大学別対策講習も実施した。
- ・英語教育推進校として「CAN-DOリスト」作成にあたって英語科会を重ねたことで、英語科全教員が、指導と評価のあり方、およびその改善について話し合うことができた。「授業は生徒が英語を使用する場である」という共通認識を持つようになったことで、授業内の英語を使用した活動が増えた。
- ・GTECを導入できていることで、英語科全教員に「4技能をバランスよく育成する授業を心がける」という意識が強く芽生えた。GTECの受験を通じて全校生徒の4技能別英語力を数値として把握することができた。その結果を個別指導に生かすこともできるようになった。
- ・英語教育指導研究者の大学教授（上智大学教授・和泉伸一氏）を講師とした教科内研修を行った。最新の教授法・教育情報を学び、そこで得た知識や情報を授業に生かす目的であるが、来年度は研修形式を工夫して継続させていきたい。

(2) 進路指導

- 進学指導推進校として、組織的な進路指導、学習指導を実現することにより、国公立大学の受験者数及び合格者数の増大と安定化を図る。探究学習を軸にした進路指導を展開し、入学後の早い段階から生徒に高い進路希望を意識させ、将来にわたって自ら学ぶ意欲を持続発展させるためのキャリア教育の充実と定着を図る。
- 理数研究校として、文理を問わず、生徒の探究心を刺激するための取り組みを一層充実させ、将来科学技術等の分野で活躍できる人材を育成する。

#### 〈実施・達成状況〉

- ・進路部の働きかけにより教員主体の模試分析会を行った。各学年3教科からの分析報告、質疑応答の後、業者からの全体を俯瞰した説明、大学受験情報の詳細、個々の生徒の成績経過分析という形式をとった。さらに、学年集会にて生徒に模試分析の結果を報告、説明した。自主学習方法をアドバイスし、自己の進路を見出す判断材料とした。模試結果はClassi から見られるようにしているので、生徒は時間を置かず復習に取り掛かれる状態になった。また、模試分析会を校内の進路指導研修に位置付けたことで、初めて進学校を経験する教員（特に若手教員）にとっては進学指導の知識やスキルを学ぶ良い機会となった。
- ・各担任はClassi による生活態度、自宅学習時間調査等の結果を踏まえた生徒面談を実施した。自己理解を深化させ、学習意欲の向上を促し、志望大学、学部を選択についてアドバイスをを行った。3年生を対象とした志望校検討会を年間2回実施し、志望大学の決定や受験対策等、きめ細やかな指導を行った。学年毎にキャリア講演会を計画的に実施した。
- ・今年度の入試結果において難関国公立大の合格者は1名、国公立大学の合格者は32名であった。合格者数は増加傾向にある。教員側の指導体制を教科、学年、分掌の連携において引き続き組織的に行っていくとともに、改めるべきところは改めていかねばならない。
- ・本校のグランドデザインを見直し、育てたい生徒像、身に付けさせたい力、教育方針等を共有した。また、次年度の「観点別評価」実施に向けて、授業に対応した各教科のルーブリック評価表を検討した。
- ・探究委員会と1・2学年の連携により総合的探究の時間の充実を図った。内閣府の「RESAS de 地域探究実践校」の指定を受け、ビッグデータを活用した課題探究学習に取り組んだ。生徒に課題の発見と深化、グループ学習、インターネットの活用、PPの作成、プレゼンテーション、相互評価の方法を学ばせた。
- ・理数研究校の活動として、大学教授による理数講演会やオンラインを活用した大学研究室訪問を行った。また今年度から、民間企業等の研究室に勤務している研究員を講師とする、キャリア教育を意識した「放課後ゼミ」を2、3か月に1回のペースで行った。
- ・地域性とこれまでの経緯を活かし、昨年度より電気通信大学と本校生徒の「自主研究の取組み支援に関する覚書」を交わし連携を強化した。これにより年間を通じて大学研究室でテーマをもって共同研究する生徒が2学年に数名出ている。理数研究校の場で成果をポスター発表した。

#### (3) 生活指導

- 高校生として守るべきルールやマナーの関する生活指導や道徳教育を充実させるとともに、主権者教育を推進し、地域に係りながら、社会に貢献できる生徒の育成を図る。
- 規範意識を高め、自主自律した学校生活を創造する。
- いじめ・体罰のない学校が実現するように、アンケートや聞き取りを実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努め、安全な学校で、自らの可能性に挑戦できる環境を整える。

#### 〈実施・達成状況〉

- ・遅刻者を減らしチャイム着席をすべての授業で再確認し、時間を守った生活を維持させた。
- ・生活指導部を中心に年間にわたって自転車指導を行った。校門に車止めを設置した。通学路、交差点での指導、駐輪場における規則の順守などを徹底させた。今年度の後半は近隣からの苦情が減少した。
- ・服装に関する決まりを明確にし、品位や感性の向上を図り、ルールやマナーを守る態度を身につけさせる指導を継続した。
- ・いじめ・体罰等を許さない環境を生徒と教職員が協力して作り出した。学校いじめ対策委員会を中心に校内の教育相談体制を整え、教育相談機能を充実させた。スクールカウンセラーと連携し、1学年対象の年度当初全員面接と中間面接を行った。学級担任及び教科担任等日常的な情報共有を図り、生徒の変化に速やかに

対応できるようにした。年間3回のいじめ・体罰アンケート結果では問題点はなかった。

- ・Classiによる保護者からの欠席連絡方法を行った。新型コロナウイルスに係る連絡としてFomsを活用した。

#### (4) 特別活動・部活動

○生徒の主体性を尊重した学校行事や部活動を奨励し、学業との両立を前提に、限られた時間の中で最大限の効果を発揮できるよう文武両道の推進を図る。

○国際理解教育の推進により自国の文化および異文化を理解、尊重するとともに、国際人として社会貢献できる人材を育成する。

#### 〈実施・達成状況〉

・体育部門は感染症対策を行った都合で、一部内容の変更や縮小を行わざるを得なかったが、3学年揃って開催することができた。合唱部門、文化部門は今年度もコロナ禍により、例年通りには実施することができず、学年別での実施となった。しかし、本校の学校行事の伝統を引き継ぐために、合唱祭については3年生が7月にプロセス発表会と称して、合唱祭で発表するまでの舞台上の流れを1・2年生に教示する会を設けた。また、文化部門については3年生の演劇を、オンライン等を活用して1・2年生に観劇させるなどの工夫を行った。学校行事の実施に当たっては、生徒が主体的に意見を出し合い、教員との調整を図っている場面が多く見られ、改めて教育活動の中での学校行事の効果を認識することができた。

・薙刀部（男子）が全国大会に出場した。書道部が「優秀賞」「会長奨励賞」を受賞した。

・今年度は「次世代リーダー育成道場」へ1名の生徒を送り出したが、海外研修は中止となった。

・国際理解教育推進として、平成26年度の2学年修学旅行から台湾への海外修学旅行とし、海外の高校の生徒と交流を図っている。令和2年度に続き、令和3年度もオーストラリア語学研修も実施する予定であったがいずれも中止となった。

#### (5) 学校PR

○ホームページなどを有効活用して日常の教育活動等の情報を発信し、広く本校の良さを共有してもらい、入学希望者の増大を図る。

#### 〈実施・達成状況〉

・学校ホームページにてブログ、学校行事、部活動の様子等を日々更新した。募集活動としてもホームページを活用し、学校紹介ビデオ、行事・部活動紹介動画を多数アップロードした。

・学校説明会（3回）、オンライン個別相談、部活動見学、授業公開（3回）、出前授業、中学校訪問について全校を挙げて組織的に取り組み、本校の教育活動の様子を外部に積極的に発信した。ミニ学校見学会（23回）を実施した。

## 2 数値目標

### 【学習指導の数値目標】

(1) 生徒による授業評価で肯定率85%（前年83%）にする。→87%◎

(2) 英語推進校としてGTEC(4技能)

1年【Basic】CEFR レベルB1 10%以上 → 14%◎

2年【Advanced】CEFR レベルB1 12%以上 → 20%◎

(3) 読書習慣を育成し未読率20%以下にする。 → 28%

### 【進路指導の数値目標】

(1) 難関国公立大学2名（→1名合格）、国公立大学35名（→32名合格）、早慶上理40名（→21名合格）の合格を目指す。

- (2) 大学入試共通テスト 5-7 型 55%を目指す。(前年 44%) → 53%
- (3) 大学入試共通テスト平均点として 650 点を目指す。(昨年 593.5 点)→ 566・1 点
- (4) 長期休業期間の講習を、夏冬春期 500 時間 (前年 181 時間) を目指す。→ 330 時間

#### 【生活指導の数値目標】

- (1) 学年集会を分掌連携で開催し、生徒の情意を高める取り組みを実施していく。  
年間の学年集会 10 回を目指す。 → 15 回◎
- (2) 遅刻回数減少を目指し、1 クラスあたり遅刻ゼロの日を年間 70 回目指す。→ 68 回
- (3) 生徒が関わる重大事故ゼロを実現するとともに、自転車通学等の月間苦情ゼロの月数増加を目指す。  
→ ゼロの月数 8◎

#### 【保健指導の数値目標】

- (1) 生徒による授業評価で校内美化に取り組んでいるという肯定派の率 80%を目指す。→ 80%
- (2) 学校見学者のアンケートで校内美化に好感を抱く肯定派の率 85%を目指す。 → 94%◎

#### 【特別指導の数値目標】

- (1) 部活動参加率 90%以上を継続する。(前年 91%) → 94%◎
- (2) 学校評価アンケートにおける学校行事や部活動に対する肯定意見 80%以上を目指す。(前年 87%)  
→ 学校行事 87% 部活動 86%
- (3) オリンピック・パラリンピック教育の講演会を年 3 回以上実施する。  
→ コロナ禍のため外部講師を招かず

#### 【地域連携・広報活動の数値目標】

- (1) 学校説明会を年 2 回開催 (→ 3 回◎)、学校見学会等を 10 回以上開催 (→ 23 回◎) して、中学校長会  
進路対策委員会発表の志望調査の倍率 1.5 倍を目指す。 → 1.54 倍
- (2) ホームページの更新を毎日行う。 → 毎日◎
- (3) 中部学校経営支援センター主催の中部フェスタ等の教育関連行事に年間 5 回以上出場する。  
→ コロナ禍のため開催されず。中部学校経営支援センター仲介で都立光明学園との交流を実施。

#### 【学校経営・組織体制の数値目標】

- (1) 教科会を各学期 3 回以上実施する。 → 3 回以上実施
- (2) 服務事故防止研修を年 3 回実施する。 → 3 回実施
- (3) 予算のセンター執行率 60%を目指す。 → 47% (2 月末)

### 3 取り組み目標に関する自己評価、及び課題と改善策

#### (1) 授業の充実

- ・今年度は次年度実施の観点別評価の検討という課題もあり教科主任会議を年間 6 回開催した。教科の枠を越えた全学的な視点で課題を掌握・整理し、学校の目標にかなうカリキュラムを次年度にかけて作成していく。
- ・都教育委員会の進学指導対策訪問による国語、数学、英語についての指導・助言内容を教科主任が各教科に持ち帰り、生徒の学力向上を図る取り組みとして具現化した。引き続き教科主任会を機能させ、学年との連携を保っていく。
- ・自習室はコロナ対応で早朝 6 時 40 分から 18 時まで開放、受験直前まで勉強していた受験生が良い結果を出した。
- ・探究委員会、理数教育推進委員会が 1・2 年生担任団と連携して、「総合的な探究の時間」の実践を行った。教科を横断する学校全体としての取組となる。

## (2) 進路指導

- ・進学指導推進校として、国公立大学や難関私立大学への進学を目指して様々な取り組みを実践してきた効果が出て、国公立への進学実績が昨年度より上昇した。しかし、数値目標には届かなかった。また、早慶上理の合格者も減少している。合格を勝ち取れるよう今回の結果を分析し、次年度への準備を行う。難関私大を目指す生徒にも早期から教科数を絞ることなく、高等学校の学びをきちんと納め、然るべき教養を身に付けたうえで受験を乗り切るようにさせたい。
- ・生徒に早い時期から難関国公立大を目指す意識を持たせる進路指導、その希望を実現させる教員の意識の一体化等、改革を進めていく。
- ・進路部が教員間で共有できる詳細な入試結果データを提示するようになった。教員は自分の指導の経過と結果を結び付け、今後の授業計画に反映させることができるようになった。
- ・12月から1月までの3学年の5教科補習体制を今年度も実施した。

## (3) 生活指導・保健指導

- ・生活指導としては今年度自転車指導に力点を置いてきたが近隣からの苦情は絶えなかった。このことについては粘り強く生徒に働きかけていくしかない。今年度、東京都の自転車に関する条例が改定されたこともあり、生徒自身が自転車の運転に慎重になることを期待する。
- ・今後の課題として取り上げなければならないのは生徒の SNS の使用に関するトラブルについてである。生徒には常に注意を呼び掛けるとともに、問題が水面下で起こる傾向が強く、新しい状況が連鎖的に発生する分野である。今年度は専門家に講義してもらう機会を設けた。1学年を対象に KDDI の講師によるセーフティ教室を開催した。
- ・新型コロナ感染症対策として、登校時にサーモグラフィーにて検温、各教室に手指消毒液をおき、休み時間毎に教室の換気を行った。生徒が使用する机上、授業器具は保健部手製のアルコールシートで消毒をこまめに行った。昼食は横並びで、私語は避けて取らせた。常にマスクをつけることを習慣づけた。

## (4) 特別活動・部活動

- ・行事について生徒の肯定感が高い。年々行事における充実感を求める生徒が本校に集まってきている。クラス内での協力や実行委員会における経験を通じて達成感をもたらすことができている。生徒の自主自立の精神を尊重しながら今後も継続させていく。今年度もコロナ禍で今までと同様の形式・内容で行事が行えなかったが、生徒の創意工夫により新しい形式で成し遂げることができた。ここで得た経験を、変化の激しい現代社会を生き抜く活力に転換していけるよう、教員もサポートしていくことが重要である。
- ・部活動について、コロナ禍においても生徒の加入率は高く肯定感が上昇した。適度な活動量が生徒の希望にかなっていたと思われる。
- ・東京都長期ビジョン及び東京都教育施策大綱では、東京オリンピック開催を踏まえ、世界で活躍できる人材育成を重点項目としている。本校でもオリンピック・パラリンピック教育の機会を活用するとともに、英語教育推進校として日々の授業、英語体験の場を充実させていく。確かな学力の向上とグローバル人材の育成に大きく寄与していきたい。

## (5) 学校PR

- ・学校ホームページのリニューアルを終え、情報を日々更新することができている。学校運営連絡協議会の外部委員から学校の様子がよくわかるとの評価をいただいた。今後は教員が新しいホームページの扱い方に慣れ、誰でも活用できるようになることが課題である。
- ・募集対策では新型コロナ感染症対策のため、様々な制約があった。人数、時間の制限、オンラインでの開催、サーモグラフィーの設置、密を避ける規制等、課題をクリアするための工夫が求められた。今年度は新たに

ミニ学校見学会を企画し、ホームページでの学校紹介も頻繁に行い、少しでも中学生を受け入れるようにした。今後も組織的な運営と協力が必要であるが、開催の時期を見極めつつ、ライフワークバランスの観点から効率的な働き方を模索していく。

- 令和4年度入選は東京都全体で受験生の減少が予想されたが、本校では募集活動を充実させたせいもあり目標倍率を達成することができた。懸案であった男子倍率も推薦入試、学力検査（一次）共に昨年を大きく上回ることができた。ただし、男子に関して学力検査の倍率は男女緩和の影響も考えられるので、次年度も引き続き、受験生の動向を意識しながら募集活動の一層の充実を図る必要がある。